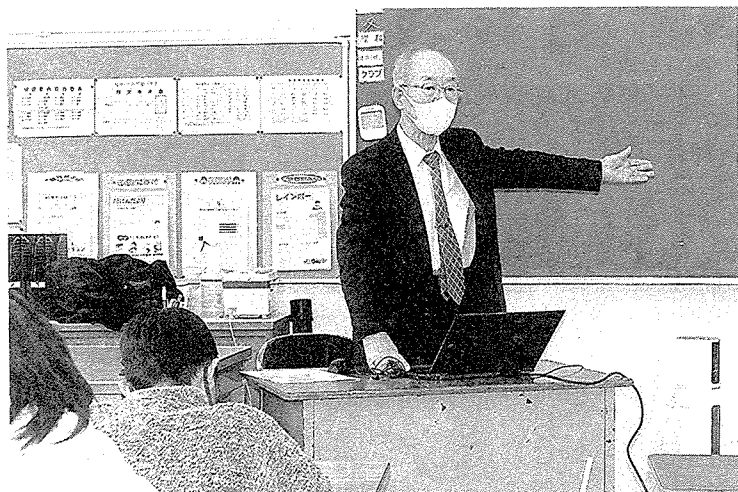


「交通マナーもコロナ対策も気遣いが大切」

名古屋市天白区平針南の交通評論家、矢橋昇さん(85)が、児童向けの交通マナー教室を続けている。新型コロナウイルスの感染拡大で、教壇に立つ機会は減っているが、子どもたちに「自分の行動に責任を持ち、人を気遣うことが大切なのは、交通マナーもコロナ対策も同じ」と訴えている。(鈴木龍司)



児童への交通マナー教室で、新型コロナウイルス対策も踏まえ、人への気遣いや思いやりの大切さを訴える矢橋さん＝名古屋市天白区で

名古屋の評論家・矢橋さん 85歳で児童向け教室継続

同区の平針南小学校で十二日に開かれた教室。矢橋さんは「人に言われてやるのではなく、自ら我慢や譲り合いができる人になってほしい」と、交通マナーの心掛けを説いた。そして「新型コロナも同じ。『これぐらいは良いだろう』ではなく、もう少しステイホームを徹底していれば、ここまで拡大しなかったかもしれない」と語り掛ける。マスク姿の児童が静かにうなずいた。

元東海ラジオアナウンサーの矢橋さんは二十代のころ、交通安全の番組に携わり、悲惨な事故の実情を目の当たりにした。その後も

取材やシンポジウムの企画などを続け、五十歳になったのを機に独立。執筆や講演活動をする中で、「大人の入り口の十歳前後から教育することが必要だ」と感じ、二〇一二年に全国の小学四年生を対象にした教室を始めた。

これまで年間二十〜三十校ほどを回ってきたが、新型コロナウイルスの影響で昨年二月九日まで教室はすべて中止に。昨年十月に一部学校で再開したが、感染が再び拡

大し、回数は減っている。ただ、近年、あおり運転など、交通マナーの欠如が招く事故やトラブルが後を絶たず、「気遣い、譲り合い、助け合いの大切さを子どもたちに伝えなければならぬ」との思いは強まっている。新型コロナを受け、「人と人との物理的距離が広がる中、思いやりの心がなければ、カサカサした社会になってしまう」との危機感も加わった。八十五歳になり、座骨神経痛で足腰が痛むが、「体力が続く限り、教室を続けていく」と意欲は尽きない。

2021年(令和3年)1月17日(日曜日)

中日新聞・愛知総合版に掲載